

目的・戦略・戦術について

目的 Object

達成する目的が曖昧だと戦略も戦術もともないません。

また、戦略なき目的はただの願望、妄想で、「医学部に合格したい! やる気はあります!」というのは目的ではなく願望です。やる気があるのは当たり前で、しっかりと戦略・戦術を立てることが大切です。

また、ただ「医学部に合格する」というのは非常に曖昧で、そのために必要な具体的な目的を考えていく必要があります。

医学部受験において不合格となる原因はとてもシンプルで、次の2つだけです。

- ・問題集の習得が間に合わない
- ・本番で得点できない

他にもやるべきことをしていない、やることを間違えているなどは世間一般では非常に多いですが、当塾では実際に合格した人と全く同じことをやってもらっているため、これらの心配はまずありません。失敗原因は上の2つだけです。（言われたルールが守れない、もあると思いますがこれはどうしようもないのでほっときます）

注意すべきは、2番目で、ただ問題集を習得しても本番しっかり得点できなければ合格はできません。

本番で得点できない理由をさらに追求すると、

- ・解くスピードが遅い
- ・ミスをする
- ・分野によって穴がある
- ・不測の事態への適応力がない

です。

そのため、みなさんが考える目的は次のとおりです。

- ・必要な問題集の習得を間に合わせる（スピード、定着度）
- ・本番でしっかり得点できる力をつける（解くスピード、ミスをしない、穴をつくらない、不測の事態への適応力をつける）

戦略 Strategy

戦略とは、ひとことで言うと「やらないことを決め、やるべきことに集中すること。」です。

限られた時間を何に配分するかが戦略の本質です。

おおまかな戦略は1週間の課題として提示します。例えば数理英が習得できていないうちは国社はやらない。英語が得意な人は英語に時間をかけない。あれこれ同時並行で進めず極力1教科に集中する。不必要にたくさん問題集に手をださない。などは当塾から提示する課題で担保されています。

ただ、1週間の課題をどう進めていくかや、模試の結果を受けてどう復習するかは自分たちで戦略を立てていく必要があります。（ここまで正確に他人が行うには24時間張り付いて勉強を管理し

ないと正確な戦略をたてることは不可能です。また模試で失点した原因などは自分自身にしかわかりません。)

戦略を考えて実行できる人はいわゆる”要領のいい人”です。

例えば医学部の卒業試験では1つでも赤点とると留年が決まってしまう試験が毎週2~3個あるという期間が1~2ヶ月続くのが普通です。(合計で20ほどです。)

要領の悪い人は、20の試験に全部同じ時間を割こうとします。もっとダメなのは自分の好きな教科に時間を割くという感情的な行動をとってしまうことです。

要領のいい人は、情報を集め、自分の勉強状況を把握し、落ちる危険がある教科(普通は5教科程度)に勉強時間の多くを割き、落ちない教科はできるだけ低コストでうまくやり過ごします。

なんでもかんでもやる、というのは要領の悪い受験生に非常に多く見受けられます。

模擬試験で失点したとき、どうすれば得点できるかを考えてください。そのとき、ただ「数学も理科も英語も問題集を5周します!」というのは何の戦略もない愚策です。もちろんまだ問題集を5周していなければまず5周することも大切ですが、すでに5周していたのであればさらにもう5周繰り返しても点数が伸びないことは明らかです。また当然教科、さらに分野によって強弱をつけるべきです。

戦略を立てるためには、目的の設定が必要です。目的の設定を正しく行うためには、なぜ失点したのか、どうしたら得点できるのかを深く追求し考える必要があります。

例

図形問題で失点した。

なぜ? → 問題集では解けるが、試験では解けなかった。

なぜ? → 公式や定理を覚えてはいるが、整理されていないため、どういう問題のときにどれを使えばいいのかがわからず焦ってしまった。

目的は? → どういう問題のときにどの定理を使うか、またその順番をノートに整理し、すらすら言えるようにする

戦略は? → 図形問題の定理を整理する

戦術は? → 基礎問題精講、模試の問題の解説からアプローチを体系的に整理し、自分の言葉でノートにまとめる。またそれを毎日寝る前に30分復習し、1週間繰り返す。

ここでの戦略をもう一度見てみましょう。模試の失点をふまえ、ただ図形問題を5周する! というのは時間もかかり目的もあいまい、やらないをことを明確に決めていないため戦略として成立していません。

「図形問題の定理を整理する」という戦略であれば、他の分野はやらなくて済み、短時間で効果的に点数をあげることが期待できます。

またそのための戦術もエッジが効きます。

戦術 Tactics

戦術は、戦略を達成するために実行する具体的なプランです。

人間は何かを変えるのが苦手な生き物です。まずはこのことを自覚しましょう。なので、普段の勉強や試験中のパフォーマンスを変えるためには、明確で具体的な行動プランがないとまず変えることはできません。

例えば計算力を速くする という目的のための戦術で、「速く解くよう意識する」というのは戦術ではありません。本当に速くなったかを調べることもできませんし、どうすればいいのかもよくわかりません。そもそも意識して計算力が速くなれば苦労しません。

よい戦術の例は、「合格る計算での計算練習で、大問ごとにかかった時間を記録する。周回ごとにその時間を20%ずつ短く設定して解く。時間をオーバーした問題は達成できるまで毎日継続する」

この例であれば2周、3周と繰り返すごとにだんだん速くなっていくことが期待できます。

PDCAサイクル

P plan 計画

D do 実行

C check 評価

A act 改善

plan は戦略、戦術を立てることです。

do はその戦術を実際に実行することです。

check は実行したことでどう変わったかを評価することです。

act はその評価をうけ、次の改善策 (plan) を考えることです。

受験では例えば

模擬試験を受けたあと、

plan：失点原因を分析し次の模試に向けて戦略・戦術を立てる。

do：日々の勉強の中で立てた戦術を実行する。

check：新しい勉強によって何が変わったかを振り返る。また、次の模擬試験を受験する。

act：check から、次のplan を考える。

この繰り返しです。これをPDCAサイクルといいます。

成績が伸びなくなる人はこれらのどこかで欠陥があります。

多くはplan と do の欠陥です。（check は模試がcheckになりますが、成績ののびが速い人は模試だけでなく、日々あるいは毎週checkを自主的に行っています。当塾では毎週の課題報告、月一の振り返りシートにてcheckシステムを設けていますので最大限活用しましょう。）

plan がない人：模擬試験を受けても分析しない、戦略を考えない（80%くらい）

do がない人：戦略・戦術を立てたが実際に勉強を変えられない（20%くらい）

特に模試の直後は日々の勉強を改善する最大のチャンスです。（模擬試験の受験はそのためにあります）

模試の直後でplanやdoを行わなければまず間違いなく成績の伸びは鈍化します。

また、自分なりに正しいと思って考えぬいたplanをしっかりとdoしても、残念ながら結果にあらわれないことも多々あります。（それを極力防ぐために分析シートをチェックしています。）しかし、立てたplanがうまくいかなかった、という大切な経験が残ります。次は違うplanを立てて実行することでうまくいく確率が高まります。

（受験では、立てたplanは効果があるが、違う失敗を併発していて点数としてあらわれていないことが多いです）

まとめると・・・

- ・医学部受験において戦略、戦術を考えることは必須
- ・plan だけでは無意味でPDCAをしっかりと行うことが大切
- ・plan が期待通りにいかなくても、次にPDCAに進めることでうまくいく確率があがる

これらは模試の振り返りだけでなく、あらゆることに活用できます。

例えば

- ・課題を進めるスピードを速くする
- ・定着度をよくする
- ・勉強時間を増やす
- ・試験中解くスピードを高める
- ・計算ミスを減らす

こういった目的に対し、どう戦略・戦術を立ててPDCAを行うか、考えられるよう習慣づけましょう。

最後に・・・

模擬試験の点数だけでみると大した差ではないように見えます（2倍も点差は開きません）

しかし、分析力、戦略・戦術を立てる力、PDCAを行う力はものすごい差です。10倍、20倍の差があります。

そしてこれらの差が成績の伸びにダイレクトに直結します。

また、偏差値60-65くらいまでは闇雲に勉強しても多くの人はいずれ到達しますが、65を超えるためにはPDCAが必須になります。

下記の3人の受験生を考えてください。

A：模試はもちろん、毎週の報告や月一の振り返りで分析をしっかり行い、優れた戦略・戦術を立て確実に実行できる。PDCAを速いペースで行い改善を習慣化している

B：模試でPDCAを行っている

C：分析や戦略・戦術の立案、PDCAができていない

どの受験生が勝つ確率が高いかは明らかです。

部活をしながら最難関医学部に現役で合格する人と、何年たっても合格ラインに到達しない浪人生の差はここに 있습니다。

そしてPDCAを行う力には上限がないのでどこまでも伸ばすことが可能です。貪欲に学んでいってください。